令和 8 年 3 月 27日

学校評価（自己評価）公表シート

社会福祉法人アタラシイカタチ
幼保連携型認定こども園　鶴舞やまとこども園

1.本園の教育・保育目標

教育・保育理念 一人ひとりのよさや可能性を伸ばし、地域とともに育ち合うこども園 **教育・保育目標** 【心豊かでたくましく生きる子どもの育成】 【探究心、知識、思いやりに富んだ子どもの育成】 **目指す子どもの姿** ・健康でいきいき活動する子ども ・最後までやりぬく子ども ・心豊かでなかまを大切にする子ども **目指すこども園の姿** ・夢と希望を持って成長できるこども園 ・質の高い教育と保育を提供できるこども園 ・家庭と地域と連携して子どもを育てるこども園

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

評価項目を設定し、それらに沿って自己評価を実施し、職員が主体性を持って客観的に自園の教育内容・保育内容をチェックし、重点項目について点検と改善に取り組む。

3.評価項目の達成と取組み状況

評価項目	取組み状況
こども園の教育・保育理念や方針に沿って教育・保育課程を編成している。	奈良市のバンビーノプランを参考に、職員で研修し、園の教育・保育理念に沿った全体的な計画になるように作成している。 一人ひとりの子どもを大切にする保育と、園の特色を反映させた教育ビジョンを作成し、研究主題に向かって保育を進めた。
指導計画は、教育・保育要領、教育・保育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成されている。	各クラスの子どもの姿をしっかりとらえ、計画を立てられるようにした。 指導計画作成について研修し、実態に合っているかを確認しながら取り組むことができた。 幼児クラスは、IB 教育の計画を指導計画に沿って作成したが、子どもの実態に合わせて変更していくことが出来た。

子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	保育教諭は、毎日の観察や記録をもとに子どもの実態を把握し、話し合いながら具体的な実践に努めている。 支援が必要な園児に対しては個別に指導計画を立てて援助したり、関係機関と連携を取ったりしながら保育を進めた。
毎月、各クラスの成果と課題を報告し、確認している。	毎月の月案、週日案で反省評価を行い、主幹、園長と共有しながら職員会議で職員に報告している。 各クラスの取り組みをドキュメンテーションで表し、記録している。 幼児クラスは IB 教育の成果をポートフォリオで記録している。
子どもの良さを認めて評価しようとしている。	一人一人の子どもに寄り添い、良さを認め、保育教諭が客観的に見る目を養うように努めている。 IB の評価プログラムを活用し、子ども達の姿を認めている。
遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	自ら選んで遊ぶことができ、それを発展させて友達と協力して遊んだり、工夫したりできる環境づくりを「FUNDAY」と設定して毎月の取り組みとした。子どもたち自身で遊びを工夫したり、異年齢の友達と一緒に遊んだりする姿が増えた。 IB 教育の取り組みの中で、探求的な遊びや共同的な遊びが増えた。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	一日の生活の流れの中で、子ども達が主体的に生活を送れるように環境を工夫した。保育教諭が基本的な生活習慣が身に付くように援助している。

教育・保育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	毎月の職員会議の中で、事例の研究や取り組みなどの情報交換をしている。講師を招請し乳児、幼児の園内研修を毎月開催した。教育・保育の質が高まり、保育環境を整えることができた。 関係機関と連携し指導やアドバイスを受けて保育に生かしている。
園だよりや各種研修会を通して、子ども園の情報を発信していく。	日々の保育の様子をコドモンで配信、園だよりやクラスだよりで保育のねらいや内容を伝える。ドキュメンテーションを作成して実際の遊びや子どもの学びを伝える。地域の会議でこども園の様子を報告する等、より積極的に園の取組みについて、情報発信に取り組んでいる。 子育て広場と合同で行事を行う機会を作り、地域親子にも園の活動を発信することが出来た。
保護者のニーズの把握のために、要望や苦情に適切に対応をはかる。	年間2回の個人懇談、年３回のクラス懇談、年１回の保護者アンケートの実施、毎月の参観、年３回の学校評議員会を通じて、保護者や地域の考えを聞きながら園の考えも伝え、改善に努めている。 苦情に関しては担当を決めて対処し改善している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価について教職員が研修などで趣旨や意味を理解し、適切に自己点検や自己評価に取り組む姿が見られた。今年度より取り入れた IB 教育について研修や会議を繰り返し行い職員が理解を深めて子ども達の保育に取り入れることが出来た。乳児保育をより丁寧に行う為に研修を行い、保育室の環境も繰り返し見直すことが出来た。 今後も自らの教育や保育を日々振り返りながら、反省や改善を繰り返し、充実した教育・保育を実施していきたい。また、保育環境の見直しも随時行っていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
安全教育と安全管理	不審者の侵入防止や対応など、危機管理マニュアルの徹底と日頃の訓練を通して職員の意識の向上を図る。 ヒアリハット研修を通して安全点検を徹底し、安全教育に努める。 大型遊具の安全な使い方や園庭遊びの研修を行い、子どもがのびのびと動ける安全な環境を作っていく。 BCP の見直しを行い、運用に努めていく。
自己点検・自己評価	人権擁護のためのセルフチェックリストを使って一人一人を大切にする保育の自己点検をしたり、職員間で話し合ったりし保育の見直しを心がけた。今後も人権研修を受けたり職員会議で話し合ったりし、各職員においてさらに課題を設定し、子どもの気持ちを受け止める、保護者の気持ちを理解することなど自己研鑽に取り組むようにする。
指導計画の編成	教育・保育要領をもとにバンビーノプランを理解し、学びながら、子どもの実態に即した指導計画の立案を目指していく。 また、園の特色について話し合い、子どもの実態に合った教育方法を確認し、より良い園づくりを行うようにする。 IB教育への取り組み方を進める中で、POI, UOIと従来の指導計画をリンクできるよう取り組んでいく。 IB教育の研修をしながら、職員の共通理解を図っていく。 職員の負担が減るように ICT の導入を進めていく。